

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500366		
法人名	医療法人 竹内医院		
事業所名	グループホーム 夜市のんた		
所在地	山口県周南市夜市720-1		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果市町受理日	平成23年2月15日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年10月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福祉と医療が一体となり、認知症の方がその人らしく、いきいきと暮らしていただけるように取り組んでいます。また、個別の生活パターン・ペースを尊重し、お一人おひとりと深い関わりを保つよう努めています。地域の方々や幼稚園、小学校とも年中を通し行事等を中心として日常的に交流を持たせていただいております。事業所としては周南市認定のAED設置施設として地域の方々の安心の場としての役割も担っています。経営母体が医療機関なので、緊急時の対応や毎日の住診があり安心して日々の生活を送っていただけます。また、ターミナルケアも段階に応じ行なっております。当グループホームにおいては山口県実習施設として委託をうけており、実践者研修や実践リーダー研修など年間を通して多くの方が実習に来られることで、入居者との交流や職員の研修の機会になっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者一人ひとりと向き合い、その人の個性や思い、希望、有する力などの現状の把握に努められ、その人に合わせた対応や支援をしておられ、利用者は安心して落ち着いて過ごしておられます。地域とは日ごろからつきあいがあり、年1回行なわれる事業所主催の「夜市のんた祭り」では企画運営も地域の人に関わってもらい、祭りの当日は多くの地域の人々が参加されて交流され、利用者が楽しい時を過ごされている他、災害時の協力員体制や緊急連絡網などの協力体制を築いておられます。医療法人の運営により、医療連携が確立しており、法人が実施する24時間医療体制の中で、訪問看護の支援があり、職員、利用者の安心に繋がっています。家族参加の「1泊のお泊り会」は家族に介護知識や介護方法を身につけてもらう場ともなっており、お正月やお盆、家族行事等自宅に外泊する利用者が増え、馴染みの場や家族との関係が途切れないための支援にもなっています。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所として掲げている理念に則り、月1回の定期カンファレンスや日々の業務の中で連携を取りながら、ホーム理念の再確認、ケア、業務の見直し、改善等行なっている。	3つの事業所理念を掲げ、理念に基づき「その人らしくいきいきと」を支援するための宣誓を行なっている。全ての職員はこの理念と宣誓を覚えるだけでなく、自らの支援の指針とし、判断に迷った時はこの理念に立ち返り考えている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム職員は日常的に地域の方々との交流を持ち、行事等を中心に利用者と地域を結び架け橋作りに努めている。また、地域の自治会に加入しており、地域行事にも積極的に参加している。	自治会に加入し、盆踊りや敬老会等の行事に参加している。「夜のんた祭り」を地域の人々と企画、運営したり、家族や地域の人々と認知症の勉強会を実施するなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の老人会やボランティアの方々には必要時施設の見学や活用、地域との交流の場として施設の開放をしている。また、認知症に関する勉強会などを企画し、地域の方々にも参加を呼び掛けている。		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員は自己評価を考え話し合う機会を設け、外部評価を受けることで日々のケアや業務などの改善の機会としている。また、評価後にカンファレンスを開き、改善点など確認し、今後活かしていけるよう取り組んでいる。	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解しており、全職員で自己評価を実施している。外部評価結果についてカンファレンスで改善点などを話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の方々、介護相談員、市介護福祉課職員、家族などが参加し事業所が行なっている様々な行事や取り組みを報告する機会としている。会議のメンバーの方々にも事業所の行事など参加してもらおう機会を持っていただいている。	定期的開催し、行事報告、近況報告、外部評価報告などをして意見交換を行い、出された意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの介護相談員を受け入れている。また、必要に応じて市の担当者情報交換を行いサービスの向上に役立っている。	市担当課や担当職員と情報交換を行い、市の介護相談員を受け入れるなど協力関係を築きながらサービスの向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会で学ぶ機会を設けており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	研修会や勉強会で身体拘束について理解を深めており、拘束のないケアに取り組んでいる。ホームは2階にあり、1階と2階は自由に行き来できる。玄関は1階のデイサービス利用者の安全を考慮し施錠されているが、手動で解除される。	
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学ぶ機会を設け、管理者及び職員が共通理解した上で日々のケアに取り組んでいる。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があると考える利用者がおられる場合に家族、及び関係者と相談し、アドバイス等行なっている。		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に契約に関する説明の機会を必ず設け、不安や疑問点の解消に努めている。また、面会時や家族会等の機会にも必要に応じて説明を行っている。		
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者および家族から苦情が出た場合、定める苦情相談窓口や第三者機関を通して、定例カンファレンスの機会や、家族会、運営推進会議等にて検討する機会を持つようにしている。	担当者、第三者委員、外部機関を明示し、家族会や運営推進会議、面会等を利用して家族の意見や要望を聞いている。出された意見は検討し、サービスの質の向上に反映させている。	
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期カンファレンスなどを開き意見を聞く機会を設けている。また、日頃から職員の意見や提案を聞く機会を持つよう努めている。	運営者や管理者は定期カンファレンスで意見を聞いたり、施設長は日常のケアの中で職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤労実績等を把握し、個々が仕事に対する向上心を持って働けるよう能力に応じて環境や条件の整備を行っている。		
14	(9)	<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員に対し、現状の知識、技術に満足することなく医療的な知識やより高度な介護に関する情報を得る為、事業所内外の勉強会や研修へ参加する機会を積極的に与え、職員一人ひとりがより高いレベルに達成できるよう努めている。	運営者は事業所内外の研修を受ける機会の確保や職員一人ひとりのケアの実際や力量を把握し、施設長や管理者はケアを共にしながらトレーニングしていくことを進めている。	
15		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は山口県宅老所・グループホーム協会に加入し、周南市西部地区や光・下松地区のグループホームでの勉強会など他グループホームとの交流を大事にしており、かつ定期的にその機会を持っている。また、医師会主催の医療・介護に関する勉強会に積極的に参加している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面接時から利用者の求めている事を聞く機会を作り、入居後も生活の変化に配慮できるように利用者との信頼関係づくりに努めている。		
17		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込を受けた時点から入居まで定期的にご家族に連絡をすることで、家族の思いや悩み、困っている事などを聞く機会を設けている。		
18		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み者及び利用者の現状を考慮し、適切なサービス利用が受けれるように相談に乗っている。また、申込者の緊急性に応じて柔軟な利用案内の連絡を行っている。その他、必要に応じて同事業所内の介護サービスの紹介や他グループホームの紹介などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の生きてきた経緯を把握した上で、本人の気持ちを大事にし、その方のできることで、できなくなったことに対して、さりげない支援に努めている。また、昔の暮らしや生活の知恵など教えてもらったりとお互いに支え合う関係を築いている。		
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者の今を理解してもらった上で、出来る限りこれまでの暮らしが継続できるように、家族と共にできることを考え、利用者を支えていくよう努めている。		
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談し、なじみの場所や人との関係が途切れないよう、お盆や正月などの家庭の年中行事や地区行事への利用者の参加を促し、ご家族と相談し必要があれば職員も付き添うよう努めている。	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの場所や人との関係が途切れないように、お盆やお正月、家族の行事、地域の行事等に参加の支援をしている。家族同伴のお泊り会で家族に介護知識や介護方法を身につけてもらい、家族と一緒にの外泊や外出に繋げている。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、利用者同士が支えあえるように努めている。耳が遠い方、思いや気持ちを伝えることが難しい方など職員が間に入り利用者同士の関わりの橋渡しを行っている。		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナル期の関わりから葬儀、法事まで利用者ご家族と共に関係を継続的なものに行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、ご本人やご家族から得た情報を生活の中に活かし、ご本人本位の暮らし方や思いを大切にしている。	センター方式を活用しシートを家族に記入してもらい、一人ひとりの生活歴や思い、暮らし方の把握に努めている。日常生活を共にする中で、会話や言動から本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は家族から聞きとったり本人本位に検討している。	

グループホーム 夜市のんた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの生活歴やなじみの暮らし方をご家族及び関係者から面会時の会話や生活歴シートを活用することで情報収集し把握に努めている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身の状態を細かに記録し、その人の生活リズムやできること、できないこと等現状の把握に努めている。また、利用者の生活リズムに合わせた食事時間、入浴時間などに対応している。		
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との会話や行動からケアのあり方について考えている。また、ご家族やその他関係者から情報収集し介護計画に反映するようにしている。	3ヶ月に1回モニタリングを行い利用者、家族の希望や主治医の意見を参考に、月1回のケアカンファレンスで現状に合った介護計画を作成している。	
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を使用した日々の記録や定例カンファレンスの場を活用し、利用者の情報を見直し全職員が情報を共有することによりケアの改善を行なっている。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療母体及びその他の介護サービスもあり、必要に応じた対応ができるよう努めている。その他、医師による毎日の往診や訪問看護や他の事業所の利用者、職員とのなじみの関係づくりを行っている。		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(体操、公文)等と協力し、利用者の余暇生活の充実に努めている。		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医をご家族、本人から聞き入れ、円滑に支援が受け入れられるよう要望を聞き入れている。また、必要に応じてかかりつけ医の受診に付き添い適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者全員が運営者である協力医療機関をかかりつけ医としている。隣接する分院の医師は週4日事業所を訪れ、利用者との関係も良好で必要な健康管理や医療が提供されている。専門医への受診も協力医療機関の紹介で適切に行なわれ、付き添いなどの支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療母体である医院の看護師やホーム内の看護師が日常的に利用者に関わっているため、日常の変化や状態などを相談できる環境にある。		
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、医師及び看護師と連絡調整を取りながら早期退院ができるよう努めている。また、職員がこまめに面会に行くことにより利用者の不安や変化など現状把握し、退院後のケアに繋げている。		
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、利用者、その他関係者と相談しながら終末期をどのように過ごすかということ密に話し合い希望を叶えられる体制を整えている。	重度化やターミナルに対する指針が作成され、本人、家族、かかりつけ医と話し合い、事業所で出来ることを説明し共有して、重度化や終末期の支援に取り組んでいる。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	各種マニュアルを揃えている。また、個別の事故防止方法を職員で話し合い、そのことが職員全体に行き届くよう定期的に検討する機会を設けている。	ヒヤリはっと報告や事故報告を基に記録し、一人ひとりの状態にあった事故防止策を検討し、事故防止に取り組んでいる。各種マニュアルも作成され、事業所内の看護師を中心にミーティングで確認や申し合わせ、研修を行っている。AEDも備えられ必要な研修を行ない、地域の設置施設として認められている。	
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	発生時のマニュアルを整えており、緊急連絡網や協力体制など地域との連携も取れている。。また、年1回消防機関を招いて避難訓練、消火訓練、緊急通報連絡訓練の実施を行っている。	災害時のマニュアルを作成し、消防署の指導で夜間も想定した消火や避難、緊急通報等の訓練を行っている。地域消防との連携もあり、非常時協力員が設置され、緊急通報装置は近隣者にも届くようになっている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしくを最優先に考え、利用者に精神的なダメージが最小限になるようケアに取り組んでいる。また、様々な変化を捉え誇りやプライバシー、機嫌を損ねることがないように努めている。	理念にそった行動宣誓「その人らしくいきいき」とにより、一人ひとりの尊重とプライバシーが確保されており、配慮した言葉かけや対応が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位ではなく、あくまで利用者の持てる力を大事にし自己決定の機会がひとつでも増えるよう取り組んでいる。また、自分の希望を思うように伝えられなくなった利用者に対し、伝えることができていた段階の思いや表情や仕草などから読み取れる本人の思いをご家族と話し合いながら支援をしている。		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に無理強いをするのではなく、その人にあったペースで支援していけるよう努めている。本人に合った食事時間、場所の提供、希望に合わせた入浴時間の提供、希望の外先やなじみの外出先への支援を行っている。		
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームで利用している理美容室を継続してなじみの関係が築けるよう支援している。また、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう家から好みの服や小物を持ってきてもらっている。		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を大切に、好き嫌い、アレルギーなどに考慮しその場でも対応できるような体制を整えている。また、職員は利用者と同じ食事を共にすることで味覚の共有ができるように努めている。おかずの盛り付けなど一緒に行っている。	昼夕は、栄養士の献立により厨房で調理された料理が配食され、盛り付けや配膳を利用者とともに行なっている。朝食は事業所で調理している。職員、利用者で食卓を囲み、会話や見守り、食事介助を行ないながら食事が楽しめるように支援している。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの生活習慣に合わせた状態を把握し、食事や水分の確保できるような支援に努めている。また、糖尿病患者の対応等、管理栄養士の指導を受けて支援している。		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに合った口腔ケアの方法を実施しており、また困難な事例の場合には通院及び往診により歯科医の処置、指導を受けている。歯ブラシや義歯は常に清潔を保てるよう清掃、保管している。		

グループホーム 夜のんた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の記録を用いて、利用者の排泄パターンや習慣を活かせるよう支援している。また、居室にポータブルトイレを置くなど、その人に合わせて排泄環境を検討し整えている。	日々の記録を活用して、排泄パターンや習慣を把握し声かけや誘導を行い、トイレでの排泄の支援やポータブルトイレやパットの活用など一人ひとりに応じた排泄支援をしている。	
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターン及び生活習慣を見直す機会を設けている。また、体操をして体を動かしたり、飲食物への工夫等、出来る限り薬に偏らない働きかけに努めている。		
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間を定めておらず希望に添えるよう入浴できるよう支援している。また、体調不良で入浴できない場合にもリラックスしてもらえよう足浴を行っている。	毎日希望に応じた入浴の支援を行い、時間は決めておらず、夕食後も対応している。入浴したくない利用者にはタイミングや時間を見計らったり、家族や他の職員が声かけするなど、気持ちよく入浴できる様に支援している。必要に応じ、清拭や足浴、シャワー等にも対応している。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドだけでなく畳に布団を敷くなど利用者の生活習慣を大切に、生活リズムに合った睡眠時間の支援を行っている。		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬管理を行っており、日常服薬する薬及びその他の服薬に関し、副作用や効用など把握できるよう努めている。お薬手帳の整理、処方された薬剤情報表の管理や医師及び薬剤師への確認を行っている。また、症状の変化に応じて医師へ服薬の相談を行っている。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を把握した上で、利用者一人ひとりに合わせた場面作りに努め、散歩や買い物など楽しみごとや気晴らしの支援が出来るよう取り組んでいる。	一人ひとりの生活歴やできることを活かして、読書、脳トレ、体操、花の水やり、洗濯物を干したり、たたんだり、配膳、パズル、新聞を読むなど張り合いや喜びのある生活を過ごせるように活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	

グループホーム 夜のんた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者のこれまで生活してきた地域への外出や定期的な帰宅や家族の元へ帰れる支援などを行っている。また、個別で外出など利用者の希望に応じられるよう外出先を限定せず出かける機会を提供している。</p>	<p>利用者の生活歴も参考に、出かける機会を確保している。日常的な散歩や買い物、ドライブ、外食、墓参、桜や紅葉を楽しむ行事、家族も同伴するお泊り会など、外出の支援をしている。</p>	
51		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な利用者には金銭の管理ができるよう支援している。また、外出時には金銭を渡し利用者ができる限り自己決定ができるよう努めている。</p>		
52		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ホームでは希望があった際、ご家族やその他関係者に電話や手紙などで連絡が取れるよう体制を整えており、利用者一人ひとりに合った支援ができよう努めている。</p>		
53	(23)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>光を十分に取り入れ、それぞれが落ち着ける椅子やソファを置き、テーブルには季節の花を飾るなど、利用者にとって過ごしやすい生活環境になるよう工夫している。特に、台所、トイレ、浴室等においては臭いや汚れによる不快感を与えないよう配慮している。</p>	<p>リビングには大きな天窓があり、明るく、換気が十分で、利用者にとって不快な刺激もなく、廊下には手づくりのカレンダーや花が活けてあり、季節感を採り入れている。ソファや椅子、畳の間が設置され、台所からの匂いを感じながら、利用者一人ひとりの好みの場所できつろいでいる。</p>	
54		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>慣れ親しんだ場所及び安心できる空間を提供している。なじみのソファやテーブルなどを用いて、それぞれが思い思いに過ごせるよう工夫している。</p>		
55	(24)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具の活用や希望に応じて畳を敷く等、利用者の慣れ親しんだ居室を保つことで安心して過ごせるよう支援している。また、入居時に利用者及びご家族から利用者にとってのなじみの空間を作る大切さを話し合っている。</p>	<p>家族や利用者の好みに応じた居室づくりが出来ており、机や椅子、家族写真等飾られ、本人が居心地良く過ごせるように工夫されている。</p>	
56		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者一人ひとりの「できる」「わかる」力を把握し、個別の状態に応じた工夫によって、できるだけ自立した生活を送れる環境に整えている。</p>		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 夜市のんた

作成日：平成 23年 2月 15日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	災害対策として、現状よりもより安全かつ迅速に避難誘導ができるようにマニュアルを見直すとともに、全スタッフへの周知徹底が必要。	スタッフ全員が災害時の避難方法を周知しており、現状よりもより安全かつ迅速に人命を守ることができるようになる。	定期的な避難訓練で、夜間想定訓練を行うとともに現状での問題点や改善点をスタッフ全員で話し合い、より良い具体的な災害対策を整える。また、ミーティング等でも議題に上げてスタッフへの周知徹底に努める。	1年
2	35	入居者お一人おひとりの状態に応じた事故防止策を見直し、現状以上に事故防止に努める必要がある。	事故なく、入居者が安全に安心して暮らせる環境づくりに努める。	入居者個別に、安全・安心して暮らせる環境づくりや事故防止対策について話し合う機会を増やし、スタッフ全員が同じ視点で介助にあたるように努める。また、その為にセンター方式によるケアマネジメントを充実させる。	1年
3	5	運営推進会議メンバーを、より充実させることにより、今以上に地域とのつながり、家族とのつながりを密接にしていきたい。	運営推進会議への参加を呼びかけ、様々な分野からホームに対する助言・ご指導を頂き、地域や家族と密接につながったホームを目指す。	家族や地域住民に運営推進会議をより認知していただき、様々な分野からより多くの参加があるように呼び掛けていく。また、そのことで気軽に訪れることができるホームづくりを目指していく。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。